

## 第7回道南いさりび鉄道沿線地域協議会 開催結果

### 1 会議概要

#### (1) 日時

令和7年1月30日(木) 11:00～11:50

#### (2) 場所

函館北洋ビル 8階小ホール(函館市)

#### (3) 出席者

沿線市町:函館市 佐藤副市長、北斗市 工藤副市長、木古内町 羽沢副町長

道 :総合政策部 斎藤交通政策局長

オブザーバー:道南いさりび鉄道(株) 川越代表取締役社長、渡島総合振興局 寺島地域創生部長

### 2 主な内容

#### ○ 道南いさりび鉄道 第2次経営計画(素案)について

会社から、第2次経営計画(素案)を提示(別紙のとおり)。

#### ◇ 沿線市町からの主な意見

- ・人材の確保、育成については、安全な鉄道輸送を確保する観点から非常に重要であり、計画的なプロパー化の推進、育成強化に向けて、取組を着実に進めていくことに協力していく。(函館市)
- ・本計画の期間中から社員のプロパー化の推進といった重要課題等への対応を進めることについて、できる限り速やかに検討を進めることが必要。(北斗市)
- ・収支改善の一環として運行本数の削減が検討されるなかで、学生利用の利便性に配慮した見直しが行われるよう、慎重な協議をお願いしたい。(木古内町)

### 3 今後の対応

協議会として、素案で示された内容について精査した上で、第2次経営計画の策定に向けた協議を進める。

### 4 その他

道から、現経営計画における未着手の課題である道と沿線市町の負担割合の見直しを提案した。

## 道南いさりび鉄道 第2次経営計画（素案） 概要

### ◆ 計画期間

- 2026年度(令和8年度)から2030年度(令和12年度)までの5か年

### ◆ 経営理念と経営目標

- 経営理念 

地域を走り 地域を結ぶ鉄道として 暮らしを支え 地域とともに歩みます
------------------------------------

- 経営目標 

1 鉄道輸送の安全性を最優先とします。 2 沿線地域の生活路線としての利用実態に即した利便性確保と更なる利用促進に努めます。 3 簡素で効率的・機能的な組織体制のもと経営の安定化をめざします。 4 地域全体と連携し地域とともに歩む鉄道であり続けます。
--

### ◆ 重点的な取組

- ① 運輸安全マネジメント制度に基づく安全管理PDCAの推進、鉄道施設の保全計画
- ② 地域の生活路線としての利便性確保、利用促進のための事業活動、関連事業の展開によるサービス・発信力の向上
- ③ 経営基盤の強化、着実な人材確保によるプロパー化の推進・育成の強化
- ④ 沿線自治体や地域応援隊等との連携

### ◆ 収支改善の取組

- 運賃見直し:令和7年4月より運賃見直し(平均約10.8%の値上げ)
- 車両数の減:運行ダイヤの調整等により車両を1両減(8両運用)
- 運行本数の減:通勤・通学の利用状況や車両運用等を考慮し、3本減(31本ダイヤ)

### ◆ 収支予測及び設備投資

(単位:百万円)

	R8	R9	R10	R11	R12	計
赤字見込額	▲286	▲270	▲264	▲291	▲272	▲1,383
設備投資	▲174	▲166	▲162	▲102	▲110	▲714

- 収支予測:収支改善の取組、人材確保によるプロパー化などへの取組を反映  
→ 5年計13.8億円の赤字を見込む
- 設備投資:安全運行の確保に必要な電力設備、踏切・信号設備、通信設備等  
→ 5年計7.1億円の設備投資を見込む

### ◆ 2031年度(令和13年度)以降に向けた課題等

- 北海道新幹線(新函館北斗・札幌間)の開業に伴う函館線(函館・小樽間)のJR北海道からの経営分離による影響
- 2031年度(令和13年度)に貨物調整金制度の新制度への移行による影響
- 企業としての自立を図るための着実な人材確保による継続的な社員のプロパー化の推進
- 製造後40年以上が経過する車両の将来的なあり方の検討